

論文審査の結果の要旨

報告番号	博（生）甲第237号	氏名	遠藤 はる奈
学位審査委員	主査 副査 副査 副査	中村 修 武政 剛弘 吉田 謙太郎 保坂 稔	
<p>遠藤はる奈氏は、2007年3月に長崎大学大学院生産科学研究科博士前期課程を修了後、2007年4月に本学大学院生産科学研究科博士後期課程に進学し、現在に至っている。同氏は、生産科学研究科博士後期課程に進学以降、環境科学を専攻して所定の単位を修得するとともに、循環型社会形成に関する研究に従事し、その成果を2010年7月に主論文「循環型社会形成のための社会経済的変換技術に関する研究」として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文4編（うち審査付き論文2編）、印刷公表予定論文1編（審査付き論文）、学位論文の基礎となる論文2編を付して、博士（環境科学）の学位の申請をした。</p> <p>長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2010年7月21日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2010年9月8日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>本論文では、メタン発酵液肥等を利用することにより地域における有機性廃棄物の需給バランス改善の効果が期待されること、メタン発酵液肥の利用によりメタン発酵施設の運転経費に大幅な削減が見込めること、化学肥料を使用した慣行栽培に比べ生産コストが削減できることを明らかにした。さらに、メタン発酵液肥の農地還元成功している地域では、マーケティングの視点に基づき、液肥の市場価値を高める方策や、液肥を受容する市場および地域社会を形成するための方策が採られていることを明らかにした。こうした実証研究を踏まえて、循環型社会形成にかかる社会経済的アプローチ手法として「社会経済的変換技術」を提示し、メタン発酵液肥の農地還元を促進する各方策を社会的変換技術として体系化することを試みた。</p> <p>以上のように本論文は、循環型社会形成および循環型社会研究に関して多大の寄与をするものと評価できる。</p> <p>学位審査委員会は、循環型社会研究の分野において極めて有益な成果を得るとともに、環境科学の進歩発展に貢献するところが大きく、博士（環境科学）の学位に値するものとして合格と判定した。</p>			